

* * * *

インドの Allahabad 大学の N.S. Parihar 教授にたのみ、同氏のハーバリウムから *Frullania* (ヤスデゴケ属) の苔類の標本 (duplicate) を送ってもらった。その中から同属11種 (うち新種1, 新変種2) を確認した。新種 *F. pariharii* はジャワ産 *F. microauriculata* Verd. の姉妹種であり、地理的隔離により分化したものであろう。ビルマから記載された *F. shanensis* Svihla がネパールにみつかった。同じくビルマから記載された *F. kalawensis* Svihla を前者の異名とした。

○小笠原のキダチキンバイ (靱山泰一) Yasuichi MOMIYAMA: *Ludwigia* of the Bonin Islands

Raven は、毛と葉のひろさと、さらに地理分布をも考慮して、キダチキンバイ *Ludwigia octovalvis* (Jacq.) Raven を二つの亜種に分けた (別にアフリカ産の一亜種がある)。一つは、新梢の毛が立っていて、披針形乃至卵形の葉をもつもの、すなわち, subsp. *sessiliflora* (Mich.) Raven で、これは、琉球あたりにある旧来のキダチキンバイそのものである。彼によるとこの亜種はアジア南方地域に多いという。

他の一つは、新梢の毛がねえていて、葉が披針形乃至線形に近いものである。これは彼の subsp. *octovalvis* であるが、小笠原産は Raven の記載からすると、この subsp. *octovalvis* に入るものと思われる。その毛は伏毛で、一見毛が少いもののように見え、葉も狭いのである。Raven によるとこの亜種は太平洋の島々に多いといい、いわば太平洋系の形が小笠原には分布していることになる。牧野標本館の標集品は全部これであった。

Ludwigia octovalvis (Jacq.) Raven in Kew Bull. 15: 476 (1962); in Reinwardtia 6(4): 356 (1963)

subsp. *octovalvis*: Raven in Reinwardtia 6(4): 357 (1963).

Nom. jap. Usuge-kidachikimbai (Hatusima 1975).

Bonin: Insula Chichijima, Yatsuse-gawa (S. Kobayashi et Y. Momiyama, March 27, 1972, MK 126076), etc.

小笠原にはなお一種、タゴボウモドキ *Ludwigia hyssopifolia* (G. Don) Exell が記録されているが、これは稀なのか、牧野には採られていない。これ (タゴボウモドキ) はウスゲキダチキンバイに似た様子をしているが、萼片が狭く小さいのですぐに区別される。また、その下半分の細くなった変った形の狭い蒴果は他に類を見ないのである。

(東京都立大学牧野標本館)